

## 厚生文教常任委員会報告事項資料

資料 番号	資 料 名	所 管 課
1	学校法人関東学院と小田原市との協議等 について	文化政策課
2	小田原市文化振興ビジョン推進委員会に ついて	
3	芸術文化創造センター整備について	
4	小田原城天主模型等の調査研究報告（最 終報告）について	文化財課
5	建物等の寄附について	福祉政策課

平成27年 6 月15日

## 学校法人関東学院と小田原市との協議等について

### 1 これまでの経緯

○平成3年（1991年）4月

小田原校地（小田原キャンパス）に法学部開校。

○平成25年（2013年）7月8日

関東学院から法学部の移転を前提とした協議開催の申し入れ。

※ 平成25年7月25日から現在まで「関東学院大学小田原キャンパス開設に関する協定書第9条に基づく協議会」を13回開催。

○平成26年（2014年）9月30日

第13回協議会において、関東学院から「関東学院大学 小田原キャンパスの自活用についてのご提案」が提出される。

※ 具体的内容は次の2点

- ・「工学総合研究教育施設の創設（材料・表面工学研究所の小田原キャンパスへの移転）」
- ・「法学部の横浜キャンパスへの再配置」

○平成26年（2014年）12月2日

先に提出された提案書について、大枠で受け入れることとした回答書を手交。

※ 「工学総合研究教育施設」の創設に向けた材料・表面工学研究所の小田原キャンパスへの移転と、これに伴う法学部の横浜キャンパスへの再配置の承諾。

○平成26年（2014年）12月10日

関東学院から「関東学院大学法学部の横浜キャンパスへの再配置についてのご提案」が提出される。

※ 法学部の横浜キャンパスへの再配置時期を一部前倒しし、大学院生及び平成28年4月以降の新入生は平成28年4月1日から移設する。

○平成27年（2015年）1月10日

「関東学院大学 法学部の横浜キャンパスへの再配置についてのご提案」を承諾。

### 2 今後の対応

「神奈川県西部における高等教育の確立」と「開かれた大学として、経済・社会・文化の各分野において地域社会に貢献」という小田原キャンパス開設時の二つの理念を踏まえ、「工学総合研究教育施設」の内容等について引き続き協議を行っていく。

## 関東学院大学 志願者数等の推移

平成27年4月10日現在

年度	区分	志願者数	受験者数	入学者数	対前年度比
平成23年度	大学全体	10,807	10,536	2,811	
	法学部	1,182	1,164	378	
平成24年度	大学全体	12,414	11,980	2,596	92%
	法学部	1,163	1,112	312	83%
平成25年度	大学全体	13,169	12,764	2,719	105%
	法学部	953	915	240	77%
平成26年度	大学全体	12,514	12,109	2,580	95%
	法学部	790	765	189	79%
平成27年度	大学全体	14,192	13,660	2,632	102%
	法学部	763	731	195	103%

(参考: 18歳年齢人口の推移)

年度	人口	対前年度比
平成23年度	120万人	
平成24年度	119万人	99%
平成25年度	123万人	103%
平成26年度	118万人	96%
平成27年度	120万人	102%

(参考: 学則に定める入学定員)

	入学定員
大学全体	2,554
法学部	330

※法学部は、平成25年度から、  
385人から330人に定員変更(減少)

## 小田原市文化振興ビジョン推進委員会について

### 1 これまでの経緯

平成24年3月 「小田原市文化振興ビジョン」策定

平成24年6月 「文化振興ビジョンを推進するための懇話会」設置

平成24年度～平成26年度 懇話会を各年5回開催

＜懇話会での主な意見＞

- ・文化振興ビジョンの推進に必要な事項は、「アクションプランづくり」や「事業への側面的支援」、「文化振興ビジョン自体の広報活動」、「市内各団体相互のネットワークのハブ化」などである。
- ・個人や団体を「文化創造」の視点で繋ぎ、課題解決を図ることで市の発展に結びつける支援が必要である。
- ・文化振興を具現化するため、その継続性や実効性を担保する条例が必要である。

### 2 小田原市文化振興ビジョン推進委員会の概要

「小田原市文化振興ビジョン」の推進に関する事項について、市長の諮問に応じて調査審議し、意見を具申するものである。

### 3 小田原市文化振興ビジョン推進委員会委員

区分	氏名	所属等
学識経験者	水田 秀子	公益財団法人 かながわ国際交流財団 専務理事
学識経験者	鬼木 和浩	横浜市文化観光局文化振興課主任調査員 日本文化政策学会理事
学識経験者	石田 麻子	昭和音楽大学オペラ研究所教授
学識経験者	中根 希子	ピアニスト
学識経験者	萩原美由紀	NPO 法人アール・ド・ヴィーヴル理事長
芸術・文化団体	関口 秀夫	小田原市文化連盟会長
住民組織	木村 秀昭	自治会総連合会長
商工関係団体	片桐 晃	小田原・箱根商工会議所副会頭
公募市民	深野 彰	
公募市民	高橋 茂樹	

### 4 第1回小田原市文化振興ビジョン推進委員会の開催について

開催日時： 6月30日(火)午後3時～5時

開催場所： 市役所 全員協議会室

諮問事項： 文化に関わる条例の制定について

### 5 今後のスケジュール

8月～12月 第2回～第4回会議の開催

## 芸術文化創造センター整備について

## 1 平成26年度整備推進委員会の開催結果について

名称	日時	場所	傍聴者数
第2回整備推進委員会	平成27年2月11日(祝・水) 午後3時から午後5時30分まで	市役所 全員協議会室	7名
第3回整備推進委員会	平成27年3月29日(日) 午後2時から午後2時50分まで	市役所 601会議室	7名

## 2 平成26年度市民説明会の開催結果について

名称	日時	場所	参加者数
第2回市民説明会	平成27年3月29日(日) 午後3時から午後5時30分まで	市役所 大会議室	46名

## 3 平成27年度整備推進体制について

## (1) 整備推進委員会委員(予定)

区分(専門分野)	氏名	所属等	専門分科会	
			建設 計画	管理 運営
施設設計(建築学)、 都市計画(環境デザイン)	仙田 満	東京工業大学名誉教授 (株)環境デザイン研究所会長		
施設設計(建築計画)	勝又 英明	東京都市大学教授	○	
文化政策(7-マネジメント)	桧森 隆一	北陸大学副学長	○	○
舞台設備(舞台音響)	市来 邦比古	日本舞台音響家協会副理事長	○	
管理運営(展示系施設運営)	三ツ山 一志	横浜市民ギャラリー主席エ デュケーター	○	○
管理運営(劇場運営)	井上 允	元厚木市文化会館館長		○
管理運営(音楽事業系)	梶 奈生子	東京文化会館事業企画課長		○

## (2) 開館準備アドバイザー

管理運営及び施設設置条例の検討にあたり、舞台機構、照明、音響、施設運営、市民参加の各専門家にアドバイザーを依頼し、助言をいただく予定。

## (3) 今後の予定について

別紙「平成27年度芸術文化創造センター整備推進委員会等開催スケジュール(案)」のとおり

#### 4 社会資本整備総合交付金について

芸術文化創造センター整備事業にかかる継続費のうち、平成27年度の国県支出金(252,445千円)を確保。

#### 5 平成27年度のソフト事業について

##### (1) 中間支援人材の育成・啓発ワークショップ／セミナー

「文化セミナー」(4回程度)

「アートマネジメント・ワークショップ」(基礎編4回・実践編11回、定員20名)

「演劇ワークショップ」(1回、定員16名)

「文化資源発掘ワークショップ」(全5回程度、定員15名)

「舞台技術ワークショップ」(1回、定員30名)

「写真撮影ワークショップ」(調整中)

「美術展示ワークショップ」(調整中)

##### (2) 子ども向けワークショップ

「子ども美術ワークショップ」(3回程度)

「日本おもちゃ会議ワークショップ」(1回)

「カフォンワークショップ」(2回、定員30名)

「能楽ワークショップ」(1回、定員30名)

##### (3) 学校・福祉施設等へのアウトリーチ

小学校等へのアウトリーチ(全25回程度)

市立病院等でのアウトリーチ(全2回程度)

##### (4) 鑑賞事業

演劇「ハイバイ ヒッキー・カンクーントルネード」(市民会館、8月1・2日)

「神奈川フィルハーモニー管弦楽団・夏休みコンサート」(市民会館、8月22日)

「松竹大歌舞伎」(市民会館、9月1日)

「かもめ図書館若手支援コンサート」(かもめ図書館、4回程度)

「昼のミニ・コンサート」(本庁舎談話ロビーほか、毎月第4水曜日、12回)

##### (5) 第68回小田原市美術展覧会 (前期5月20日～24日／後期6月3日～7日)

##### (6) 第62回小田原市民文化祭 (9月下旬～12月上旬)

平成27年度芸術文化創造センター整備推進委員会等開催スケジュール(案)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
芸術文化創造センター整備							着工					
整備推進委員会					1回						2回	
管理運営専門分科会					1回			2回			3回	
市民ワーキング							1回				2回	
現場見学会				1回(6/27)					完成まで半年に1回開催			3回

平成28年度以降予定

平成28年度	施設設置条例案の上げ
平成29年度	芸術文化創造センター完成、オープニング事業

## 小田原城天守模型等の調査研究報告（最終報告）について

小田原城天守模型等の調査研究については、天守模型等の詳細調査を実施し、資料の価値を明確にするとともに、江戸期に存在した小田原城天守の実像を検証することを目的として平成25年度・平成26年度の2箇年にわたって調査を行った。

その調査・研究の成果については、これまでも平成26年8月の厚生文教常任委員会に中間報告を行ったほか、市民を対象として平成26年12月20日に「小田原城天守模型等調査報告会～小田原城天守模型等の調査で何がわかったか～」と題する催しにより公開してきたところである。この度、最終報告として「小田原城天守模型等の調査研究報告書」が完成したので、その概要を報告する。

### 1 委託先

学校法人 神奈川大学 （神奈川大学名誉教授 西 和夫 博士の研究チーム）

### 2 委託期間

#### (1) 平成25年度調査

平成25年6月24日～平成26年3月14日

#### (2) 平成26年度調査

平成26年6月23日～平成27年3月31日

### 3 主な調査成果の概要

#### (1) 小田原城天守模型3基の比較検討

小田原城天守の模型は、小田原城天守閣に展示されている「旧東京大学蔵（以下「東大模型」という。）」と、「大久保神社蔵（以下「大久保神社模型」という。）」、そして神奈川県立歴史博物館に展示されている「東京国立博物館蔵（以下「東博模型」という。）」の3基が知られており、いずれも江戸時代に製作されたものと考えられている。今回それぞれの模型を調査し、比較検討を行ったものである。

小田原城天守模型3基の比較から次のことが判明した。

- ① 3基の模型のうち、大久保神社模型と東博模型は類似する点が多い。東大模型は別の文脈をもつ存在であることがうかがえる。
- ② 模型3基の年代を確定する根拠は得られなかった。
- ③ 東博模型には最上階の4階に摩利支天を祀る空間の表現がなされ、その様相が初めて明らかになった。
- ④ 大久保神社模型と東博模型は、高さ方向も平面方向も同じ縮尺で作られている。小田原城三重天守引図との比較から、柱梁の架構まで実際の構造に近い形で表現されている。

#### (2) 小田原城天守最上階に祀られた摩利支天像及びその空間の存在

小田原城天守最上階に祀られていた摩利支天像は、現在も復興天守最上階の、三層天守の姿をした厨子の中に安置されている。この像は武士の守り本尊とされ、貞享3年（1686）に小田原藩主大久保忠朝が天守に奉安したものであり、元禄16年（1703）の大地震で天守は全焼したが、この像のみ災いを免れたので、御天守摩利支天と呼ばれ、さらに尊崇されたといわれている。大久保神社模型と東博模型の2



基の模型には摩利支天像を祀る空間が再現されており、この像の周りに他の天守七尊（大日如来・阿弥陀如来・如意輪観音・弁財天女・子安地蔵・葉師如来）が安置されていたことなど、この調査により新たな知見を得ることができた。このため、現在経済部観光課で進めている、天守閣耐震化工事にその成果を活かし、最上階に摩利支天像などが祀られていた空間が復元されることとなった。

### (3) 類例天守模型との比較検討

宇和島城天守模型、松江城天守模型、延岡城二重櫓模型・三重櫓模型、大洲城天守模型の4箇所5基の類例天守模型と小田原城天守模型3基とを比較し、次のことが判明した。

- ① 近世に遡る天守模型は全国的に5箇所8基で全てである。
- ② そのうち3基が小田原城天守模型で、屋根瓦まで表現されており、模型として優れている。東博模型は未指定だが、大久保神社模型と東大模型が神奈川県重要文化財（建造物）に指定されていることから、同等の価値を有する。
- ③ 類例調査を行った4箇所5基の天守模型はいずれも柱梁の架構を示すもので、小田原城天守模型の東大模型のように外壁を表現したものは珍しい。
- ④ 大久保神社模型と東博模型のように最上階の摩利支天を祀る空間のような内部の様子まで表現しているものは他にはなかった。
- ⑤ 4箇所5基の天守模型のうち、宇和島城天守模型は、縮尺1/10で作られた精巧な模型であり、他の模型は高さ方向や柱太さが強調されているものもあった。これは模型を作る上で今でも採用される一般的な手法であり、小田原城天守模型についても、その作られた意図を汲み取る必要がある。
- ⑥ 模型は、天守造営にあたった大工棟梁が作っている。手間・費用・時間をかけて作っており、類例からは修理時や再建時に作ったことが確認された。
- ⑦ 小田原城天守模型も、再建時に作られたものだとすれば、安政元年（1854）・2年（1855）の地震後、災害が続き、天守の修理ができず、やっと文久元年（1861）に模型を作って検討したのではないかと推測される。この時に大久保神社模型と東博模型のいずれか、または両方が作られたと考えても矛盾しない。

### (4) 木造復元（復興）天守の実例調査

いずれも国指定史跡ではないが、木造で復元（復興）された白石城復元天守、掛川城復元天守、大洲城復元天守の3つの天守の実例調査を実施した。

## 4 まとめ

小田原城の3基の天守模型や関連図面等の調査、比較検証を行ったほか、他の城の5基の天守模型とも比較検討を行ったことにより、小田原城天守模型の重要性を改めて確認することができた。また、天守最上階の摩利支天像等が祀られていた空間の存在が明らかにされたことも、大きな成果の一つと言える。引き続き、小田原城天守の実像を解明していく上での重要な資料となることが期待される。

なお、こうした成果をふまえ、既に神奈川県重要文化財（建造物）に指定されている小田原城天守閣に展示されている2基に加え、東博模型を含む3基で改めて文化財的価値の評価を行う必要があるものと思われる。

## 建物等の寄附について

### 1 経 緯

平成26年11月に福祉などを目的に地域の人に役立つ施設として活用してほしいとの意向により土地及び建物の寄附が、また、平成27年2月に地域福祉のために役立ててほしいとの意向により8千万円の寄附があった。

### 2 寄附者

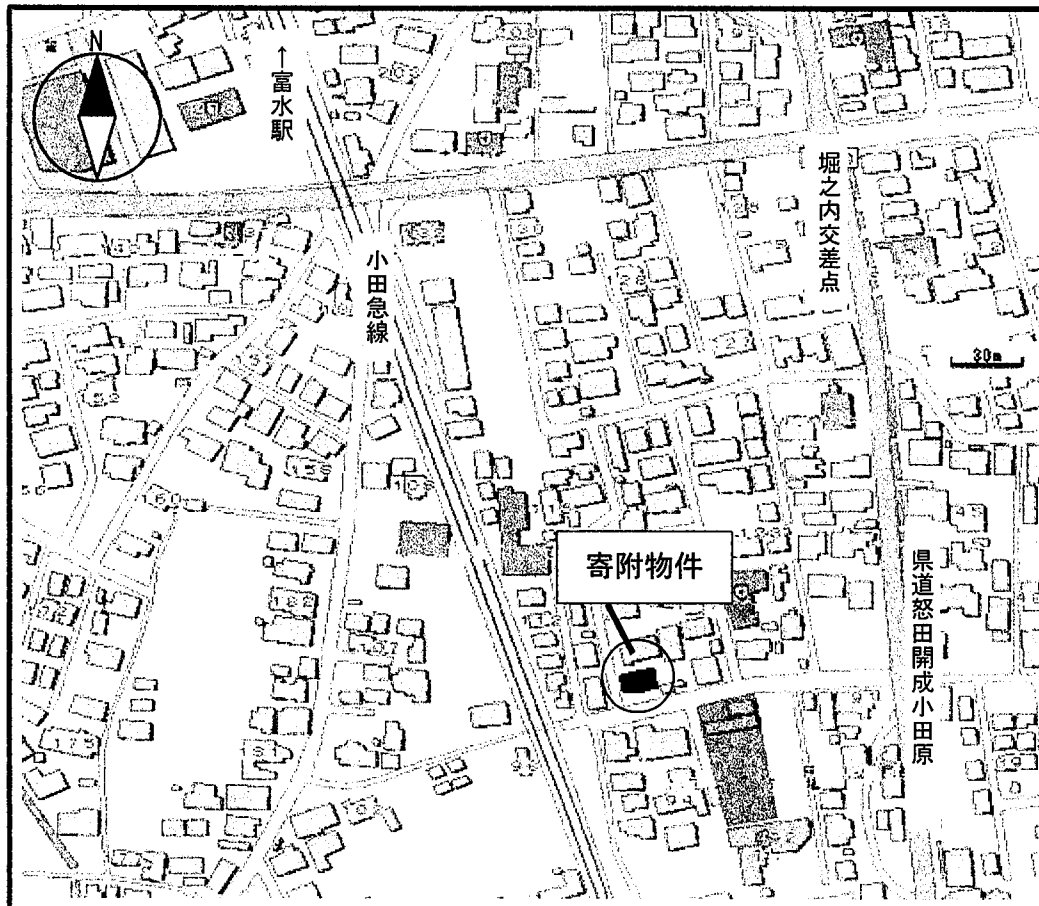
本人の希望により匿名

### 3 寄附金額

8千万円

### 4 寄附建物の概要

- (1) 所在地 小田原市飯田岡117番地の3
- (2) 建築年 昭和57年
- (3) 構造 鉄筋コンクリート造 地上2階
- (4) 土地面積 宅地 297.52㎡
- (5) 床面積 居宅 145.29㎡

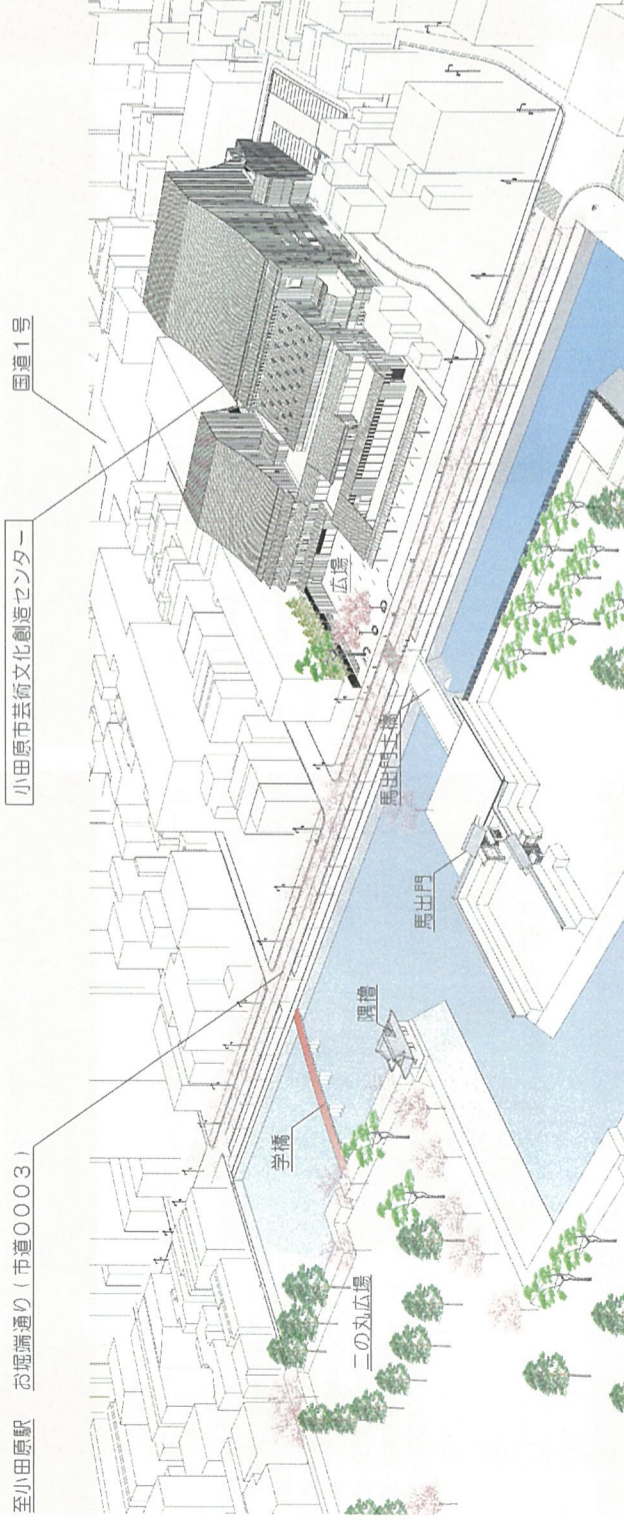


寄附物件位置図



箱根連山を背景に、美しい水と緑に囲まれた小田原城跡を正面に臨む環境を生かした質の高い都市景観を形成しています。三の丸地区全体の景観に配慮し、小田原城と一体となって、後世に残る風景をつくります。

付近見取図



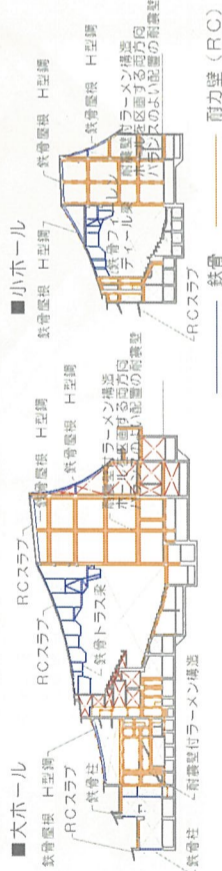
設備計画

熱源等の高効率機器の採用、大空間における居住域空調、中間期や冬の冷暖負荷を効率的に処理する外気冷房、LED照明の積極的な採用等、省エネルギーや環境負荷低減に配慮した設計です。



構造計画

耐震性、遮音性、断熱性に優れた鉄筋コンクリート造とし、耐震壁をバランスよく十分に配置した強度・剛性の高い構造です。湾曲する屋根は鉄骨架構により構成し大空間を実現しています。さらに天井の落下防止に配慮し、鉄骨架構と天井下材を一体として高い安全性を確保しています。



整備スケジュール

Timeline chart showing project milestones from H22 to H29, including design, construction, and completion phases.

発行：小田原市文化政策課 〒250-8555 神奈川県小田原市取蓮300番地 TEL：(0465) 33-1702 / FAX：(0465) 33-1526 WEB：詳しくは「暮らし」→「文化/生涯学習」→「文化創造センター（市民ホール）」

小田原市芸術文化創造センター

実施設計概要版

平成27年5月 小田原市

実施設計の概要

●市民の思いをつないだ設計

小田原市芸術文化創造センターは、長く市民に愛される施設を目指し、基本構想・基本計画の策定から基本設計に至るまで、市民や専門家を交えて丁寧に検討を重ねてきました。実施設計では、基本設計をさらに発展させ、芸術文化の多様性や将来のニーズに対応でき、「ハレ」の場にふさわしい質を保ちながら、イニシャルコスト（初期投資）や、ランニングコスト（維持管理費）にも配慮したうえで、誰にも快適で、シンプルで使いやすい内容に仕上げました。



※ 外観イメージは完成イメージであり実際と異なる場合があります。

●小田原城と合わせて一つの景観となり、小田原のシンボルへ

小田原城周辺の雰囲気を保つため、歴史を意識しながら現代の素材や技術によって新しい美を表現する設計としました。小田原城に寄り添って一つの景観となり、新たな小田原のシンボルとなります。

●基本設計を発展させた実施設計

- 小ホールの高さを抑え、より景観に配慮しました。
■極限まで床面積を抑え、コンパクトな施設としました。
■内装・外装を一層簡素化し、コスト削減を図りました。
■動線を見直し、さらにユニバーサルデザインに配慮しました。
■諸室に水回りを設計し、一時的な避難ができるよう防災対策を強化しました。

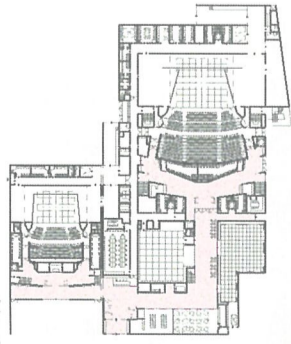
建築概要

Table with building specifications: 計画地, 敷地面積, 延床面積, 階数, 構造, 建物高さ, 駐車場, 駐輪場.

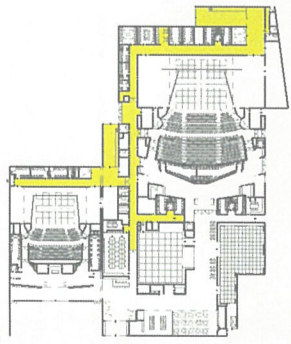
## 個性のある「三つの街」

■ひとつの城郭のように、建物の中に個性ある「3つの街」を配置します。それぞれの「街」において、来館者、観客、演者、スタッフ、サークル等の交流が生まれます。

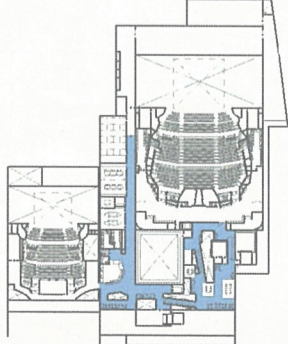
■「劇場の街」(主な利用者：来館者、観客等)  
オープンロビーを中心とし、大・小ホール、展示ギャラリー、大スタジオ、カフェ、文化情報コーナーなどの主要な諸室をつなぐ街



■「演者の街」(主な利用者：演者、スタッフ等)  
裏方を一体化することで、楽屋等が相互利用できる機能性の高い街

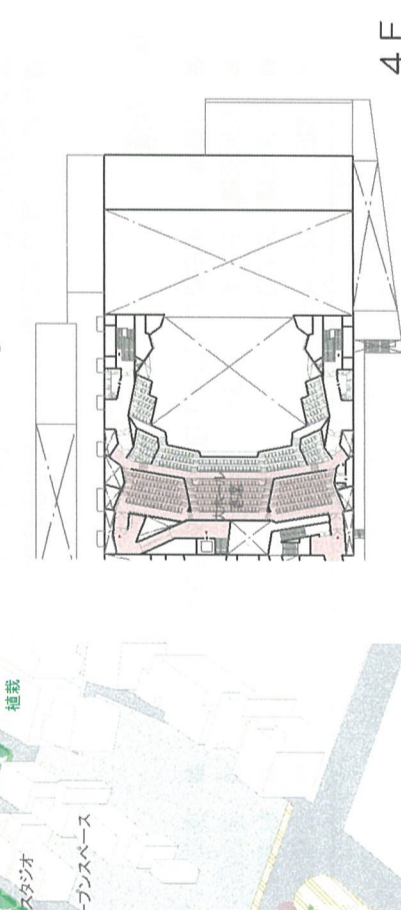
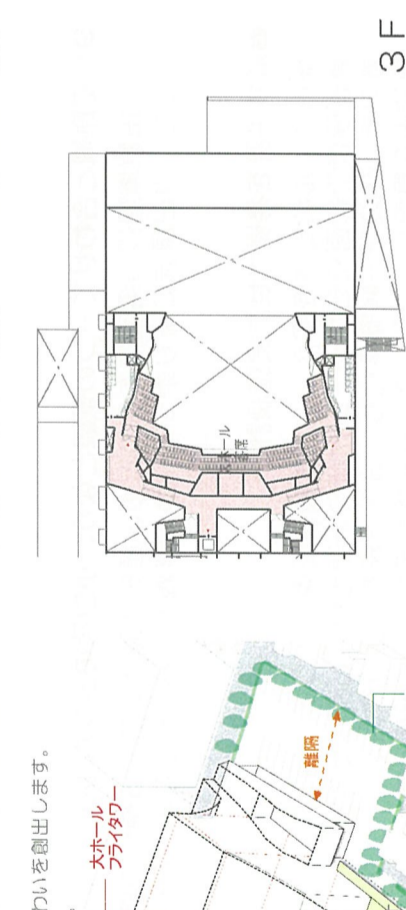
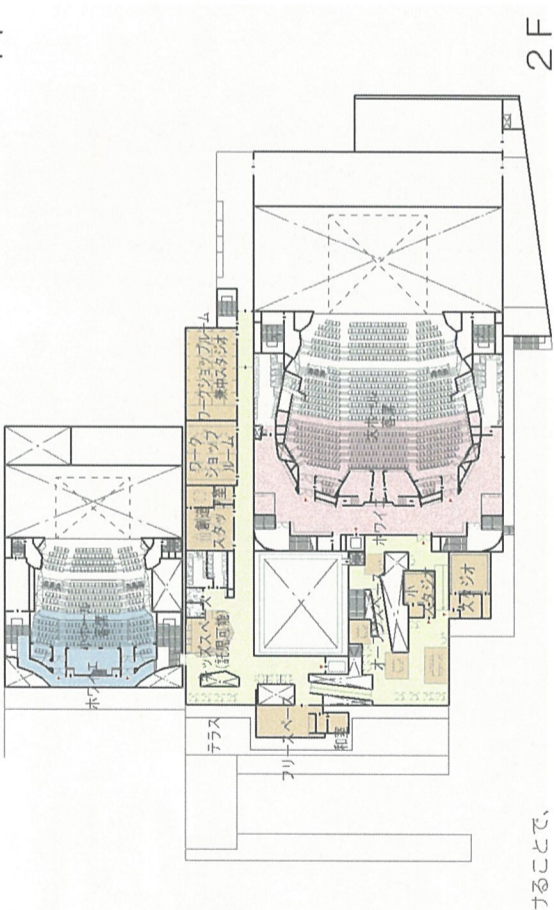
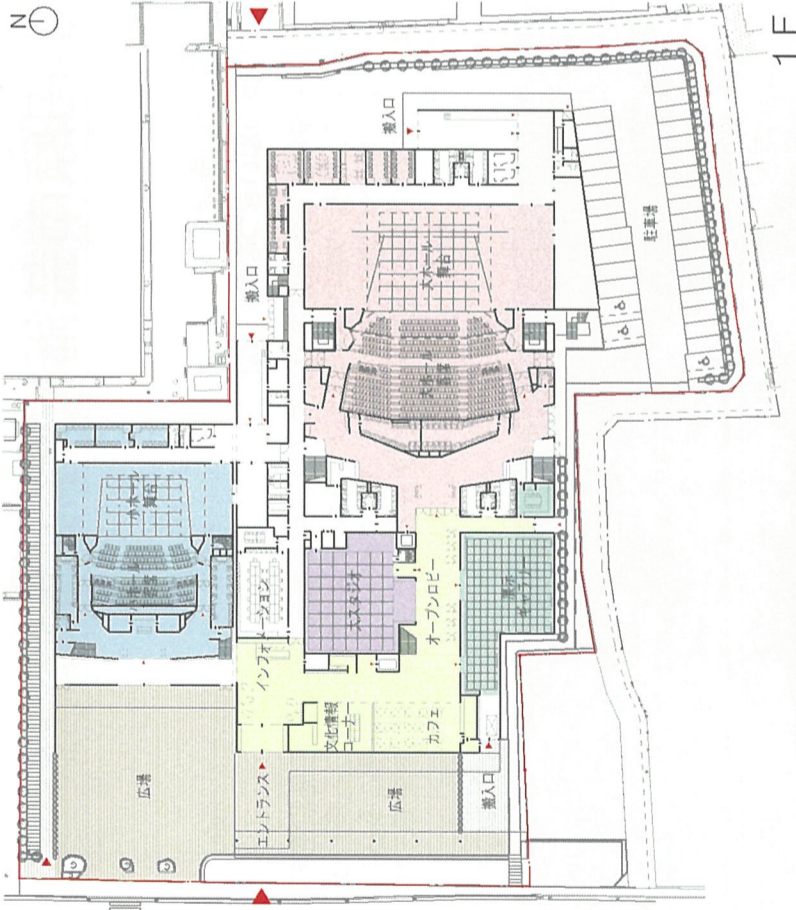
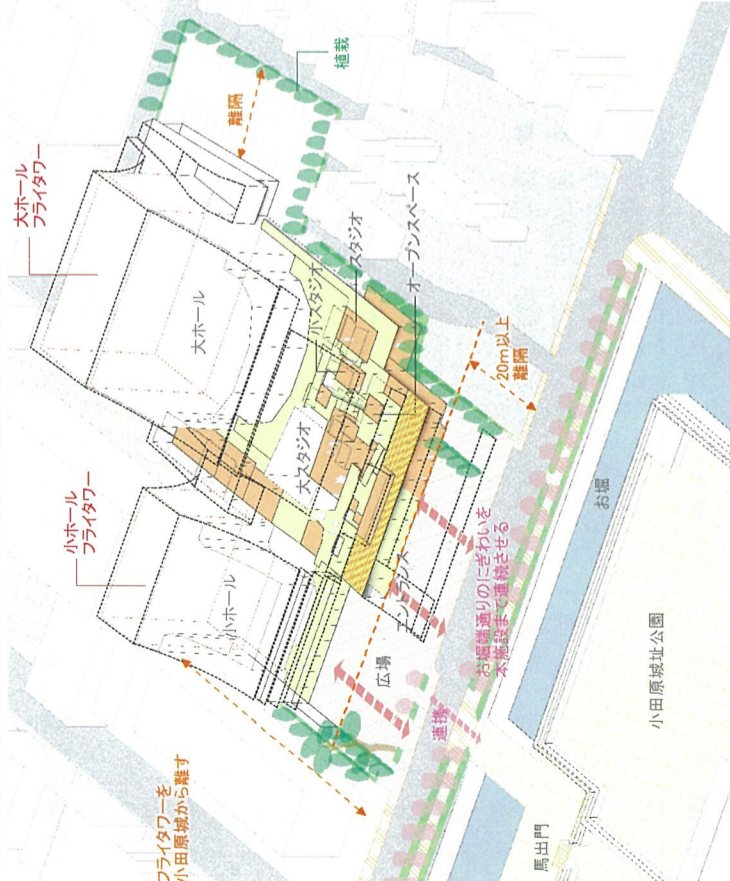


■「創造の街」(主な利用者：来館者、サークル等)  
市民が様々な創造活動を行い、芸術文化に触れられる街



## 施設の構成

- フライタワーをお感通廊からできるだけ離して配置し、広場を設けることで、建物の圧迫感を最小限にしました。
- お感通に広場、カフェ等を配置し、お感通通りと一体となったにぎわいを創出します。
- 南側に駐車場と地蔵を設けることで、近隣の住環境に配慮しました。



## 大ホール

- 客席数：1100席(1階席708席 2階席392席)
- 多目的室(親子室)：2室
- 楽屋：6室
- 舞台寸法：8×8間(約14.4×約14.4m)
- 舞台間口：10間 ■オーケストラピット迫付き

音楽はもちろん本格的な舞台芸術作品の上演が可能なプロセニアム形式の舞台を持つ、バルコニー席も備えた多目的なホールです。座席を千鳥に配置することで、見やすさを追求しました。



## 小ホール

- 客席数：289席
- 多目的室(親子室)：2室
- 楽屋：3室
- 舞台寸法：6×5間(約10.8×約9m)
- 舞台間口：8間

優れた公演が鑑賞でき、市民の活動の発表など、多様な用途に対応できる、段床式固定席の多目的型のホールです。



## 広場

アート活動やイベントの開催など、まちのにぎわいを生む空間です。庇によってエントランスまで雨に濡れることなく、アクセスできます。また、災害時の活用も想定しています。



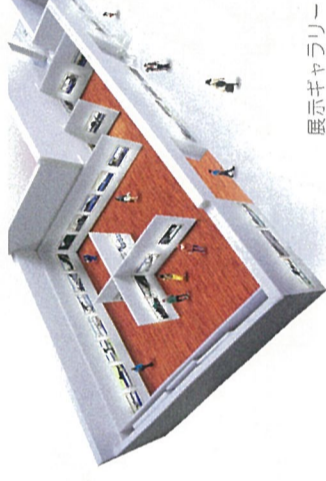
## オープンロビー・文化情報コーナーなど

インフォメーションなどの機能を備え、市民が気軽に訪れ、集い・交流する場所です。外部とのつながりを考慮して、景色を楽しめ、にぎわいが感じられる、居心地の良い休憩スペースになっています。



## 展示ギャラリー

可動パネルにより、平面作品だけでなく立体展示や生け花など、多様な展示に対応できます。また、大型展示に対応できるように、十分な天井の高さを確保し、専用搬入口、備品庫等を備えています。



## 大スタジオ

十分な天井の高さを確保し舞台設備も有しています。大ホールの主舞台に準じた大きさで、リハーサルや練習、小規模な公演に加え、展示にも対応できます。



## 創造支援エリア

市民の創造活動を支える様々な諸室を配置しています。

- ワークショップルーム兼スタジオ(簡易防音)
- 小ホールリハーサル機能・ワークショップ機能(大ホールの楽屋として利用可能)
- 小スタジオ(防振・防音機能) 1室
- スタジオ(防振・防音機能) 1室(調整室付き)
- 創造スタッフ室・キッズスペース・オープンスペース
- リーススペース・ワークショップルーム・和室など

